



### 幹事長就任にあたって

黒田和男

(東京大学生産技術研究所)

日本光学会は光学懇話会として出発した1952年の設立当初より、「研究者」と「技術者」から構成され、今なおこれらを両輪として運営すべきものと考えています。大学や国公立あるいは企業の研究所に所属する研究者にとって、学会は、自らの研究成果を公表し、同時に、最新の情報を仕入れる最も重要な活動の場であります。一方、本会を支えるもうひとつの柱は、光学関連機器を開発製造する企業の技術者であります。企業の技術者にとっても、学会は情報交換を達成する重要な機能を果たしています。この2つの車輪が滑らかに回転し、研究者と技術者が結束してはじめて日本光学会、ひいては日本の光学界の健全な発展があるものと信じます。

日本光学会の会員数は2,000名弱でほぼ横這いの状態です。年齢別の分布をみますと、40歳代前半にピークがあり、30歳代および50歳代がそれに比べ減っています。40歳代前半は働き盛りの年代であり、その世代が柱となって日本光学会を支えている状況は大変心強いのですが、その反面、気になることは30歳代前半から20歳代後半の会員数が相当減っていることです。比較のため、応用物理学会の会員数の分布をみますと、20歳代が最大で、年代が増えるにつれて会員数は減っています。この差はおもに学生会員にあり、本会は学生会員が非常に少ない(3%)のが現状です。応用物理学会と日本光学会は立脚点が異なるので、同列に論ずることは無意味かも知れませんが、若手の研究者や技術者を引き付ける努力を惜しんでは、本会の未来はありません。早急の対策が要求されます。

日本光学会はシンポジウムやセミナーなどさまざまな事業を展開しています。そのなかで出版関係事業について一言申し上げますと、諸般の事情で大幅に遅れていたOPTICAL REVIEWの電子版ですが、ようやく、公開の目処が立ちました。まもなくOPTICAL REVIEWの創刊号から最新号まで、インターネット上で閲覧が可能になるはずです(当分は会員限定のサービスです)。植田編集委員長はじめ電子化の実現に尽くされた関係者に感謝いたします。今後は、投稿から閲読、採否決定まですべての工程を電子化すべく、整備していきます。さらに、「光学」の電子化や、民業圧迫になら

ない形で学術専門書や教科書などの電子出版も実現を図りたいと考えています。

光学は科学技術の発展を支える基盤技術のひとつになっています。なかでも、撮像からディスプレイまで画像技術は現在のデジタル技術の最重要部分を成し、光学の果たす役割はますます増大しています。この意味で、光学分野がすたれるということはないと信じます。しかし、光学産業が元気なのに比べ、学会サイドからみると、基盤技術というのは地味な役回りであり、光学分野が全般的に輝いているとはいえない状況にあります。量子エレクトロニクスやフォトニクスの分野があいかわらず活況を呈しているのに比べると、本会が強かった分野で、個々の研究では優れたものが多数ありますが、研究者のマジョリティーを引きつける求心力のあるテーマが希薄になっているように感じます。もちろん、量子エレクトロニクスやフォトニクスは本来日本光学会がカバーすべき分野であり、現に研究会やシンポジウムで関連するテーマを繰り返して採り上げていますが、残念ながら、その分野で本会はメインの学会にはなっていません。既存の分野をできるだけ取り込んで行く努力と並行して、新しい分野の開拓も当然行われるべきです。例えば、バイオやナノテクノロジーなどは、大変勢いのある研究分野です。光学関係でもこのような最先端の分野で先駆的な研究を進めている研究者が少なくありませんが、さらに厚みを増すべきであろうと考えます。と同時に、将来発展するかもしれない未知の分野も育てていかななくてはなりません。間口を広げることと新しい分野を立ち上げることは、本会のさらなる発展に欠かせない要素です。これまでの会員2,000名という状態に満足せず、本気で会員拡大を目指すべきではないでしょうか。さらに、国内には光学に関連した学会が多数あります。これらの学会との連携もこれまで以上に強化し、互いの発展を図る必要があるでしょう。将来的には、複数の学会の整理統合もあり得るかもしれません。また、国際的な視野からみた日本光学会のあり方も考えていかねばなりません。特に、米国とヨーロッパがそれぞれ一つの強力な極を形成しているなかで、われわれがアジアの拠点づくりに何ができるのか、真剣に考えていかねばならない状況にあります。幸い、諸先輩のご努力のおかげで、財政は健全であり、ある程度余裕を持って、新しいことにチャレンジできる状態にあります。ぜひ、面白いアイデアを出していただき、実行に移せればと考えています。皆さまのなお一層のご支援をお願い申し上げる次第です。